

2021 年秋季講演会「若手セミナー」実施報告



日本地下水学会 若手支援・男女共同参画 (YEPS) 委員会

北村 涼馬*1

榊原 厚一*2

2021 年 12 月 2 日 (土) 10:00~12:00 に若手セミナー (ハイブリッド形式) を実施しました。今回は、新型コロナウイルス感染予防対策を講じた上で、現地会場での参加および Web 会議システムを用いて参加を募り、ハイブリッド形式での開催となりました。

新型コロナウイルスの世界的流行が続き、新しい生活様式には徐々に慣れてきたものの、フィールドワークやオフラインでの学会参加などの日々の研究活動が大きく制限され、交流の場も少なくなり、地下水学の将来を担う若手同士の良好なコミュニケーションの場の確保が難しい状況です。そこで本セミナーでは、地下水学の将来を担う若手育成の一環として、中屋眞司先生 (信州大学 特任教授/名誉教授) によるご講演および講演内容に関する質疑応答を行いました。本セミナーでは、技術者・研究者・学生を含む 64 名 (現地参加: 37 名, オンライン参加: 27 名) の方々にご参加いただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今回の若手セミナーでは、「発想力」と題して、講演者である中屋先生のご経歴、これまでの研究成果、海外調査などの多彩な体験談を踏まえ、発想力の重要性、いかにして発想力を養っていくかについて、若手への熱いメッセージを込めてご講演頂きました。また、講演後の質疑応答では活発な議論が行われました。民間企業を経て大学での研究・教育活動に取り組まれた中屋先生のご講演内容は、聴講者にとって今後の研究活動・業務を行っていく上で励みとなり、今後の研究活動や業務のためのモチベーションアップに繋がったのではないのでしょうか。また、今回は講演者 (中屋先生) と聴講者 (若手) との議論がメインとなりましたが、セミナー後に実施したアンケートでは「ぜひ若手同士の議論の場を設けて欲しい」とのご意見を頂戴しました。次回ぜひ、若手同士の交流が盛んになるような企画を実施したいと思います。

依然として続くコロナ禍の状況での開催ではありましたが、ハイブリッド形式で開催したことで、より活発な議論が生まれたと思います。本セミナーで地下水学の最前線で活躍される方の講演を聞き議論すること、同世代の人脈づくりや交流は非常に有意義であり、今後も学会が主催する毎年恒例のイベントとして継続する価値は非常に高いと感じております。

*1 日本工営株式会社 *2 信州大学

アンケート集計結果報告

若手セミナー後に実施したアンケートの集計結果を図1に示します。参加者の76%が社会人の方で、24%が学生の方でした。また「若手セミナーへの参加は今回が初めて」と回答された方が過半数を超えています。若手セミナーの開催情報をどのように知ったかという質問に対しては、上司・同僚・知人・友人等からの紹介によって知ったと回答された方が約半数を占めておりました。この傾向は、春に実施した若手交流会（オンライン）でも同様でした。人伝いで情報が伝達するという実態を踏まえ、若手セミナーや若手交流会の意味、目的、描く将来像等が明確かつシンプルに表現でき、共有できれば、本イベントの参加者を更に増やせるのではないかと感じました。参加形式については、オンラインでの参加が37%に対して現地参加の割合が63%でした。今後も本イベントに参加してみたいかという質問に対しては、ポジティブな回答が多く寄せられました。更に回答を詳細にみると、参加者の皆様の多様なニーズが見えてきました。コロナ禍が終息しても、オンライン形式で参加可能な体制は継続していくべきと感じました。今後も今回のような若手に向けたイベントを継続し、地下水学の将来を担う若手のコミュニケーション、成長の場となることを期待します。

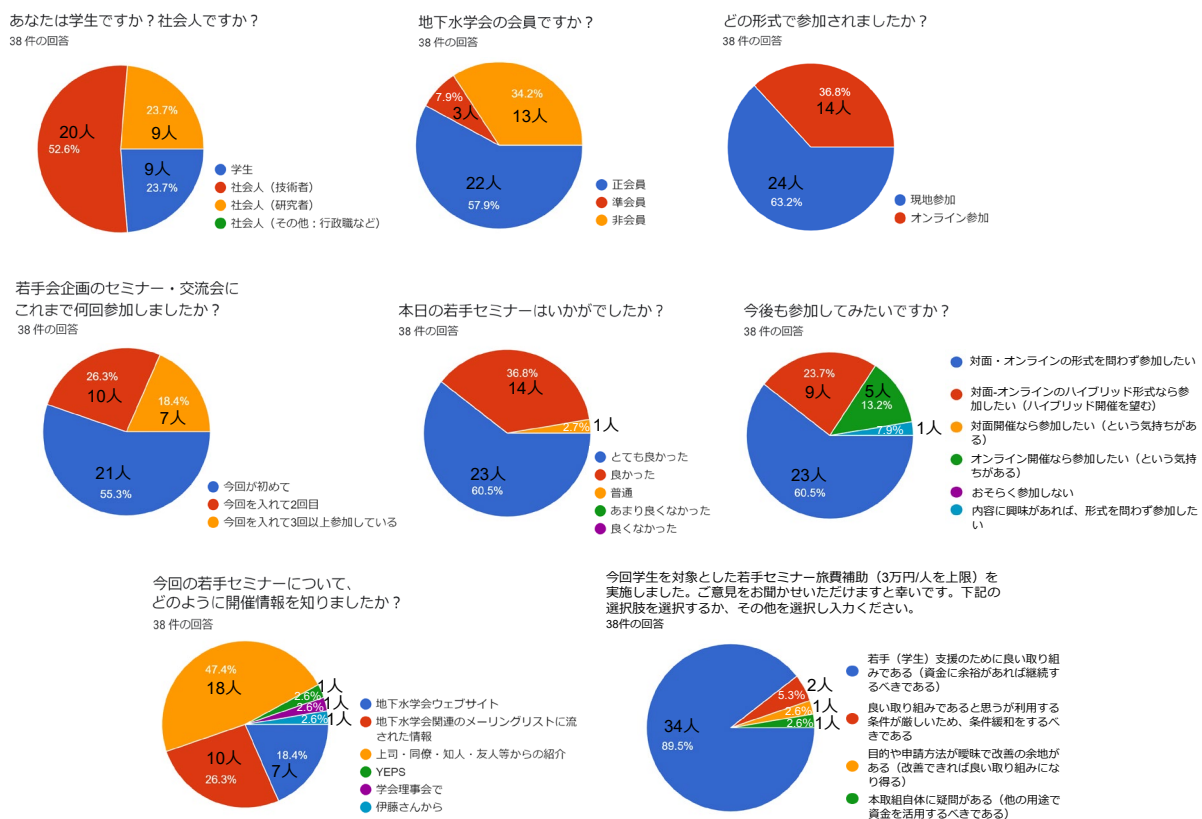


図1. Google form を利用したアンケートの集計結果
64名の参加者のうち38名からの回答（回収率：59%）

若手セミナー参加レポート

今回の若手セミナーに参加いただいた2名の方のレポートを表1、表2に示します。両名共に、今後の研究活動にとって良い刺激を受けられたようです。倉澤様と志様には、参加レポートを執筆いただき誠にありがとうございました。

表1. 若手セミナー参加レポート（長崎大学大学院 志 強）

氏 名	志 強 (シ キョウ)
所 属	長崎大学大学院 水産・環境科学総合研究科 学年：博士3年生
今回のセミナーを通じて感じたこと、今後の意気込み、決意等	<p>中屋先生の講演を聞き、「既存の知見を組み合わせることで新たな化学反応がある（新たな発見ができる）」というお話に深く共感しました。私自身、日本に留学して6年間、地元の文化に加えて日本の文化を体験したことで、化学反応が起こり、考え方や生き方が変わりました。このことによって、日々、とても貴重な経験が出来ていると考えています。</p> <p>また、「研究に関して様々な経験を積むことが大切である」というお話にも共感しました。私は、研究を始めて以来、地下水に関する水質分析と統計分析を主に行ってききましたが、最近では、地下水流動の数値解析や同位体分析、地下水年代推定など、他のトピックについても興味を持っています。これまでの経歴や現在関わっている研究内容にとらわれず、自分の専門知識と分野を広げることが大切だと感じました。</p> <p>地下水に関連する専門分野は多岐にわたっています（例えば、地震学と地下水、農学と地下水、生態学と地下水など）。そのため、水環境・水循環に関わる具体的な問題を解決するためには、様々なことに興味を持ち多分野の知識を身に付ける必要があると感じました。そして、現地での調査や実験は、データを得るという目的だけでなく、実際に現場に行き体験や調査をすることによって新たな問題の発見や発想につながると分かり、勉強になりました。</p> <p>今後も、若手会のイベントにおいて、経験豊かな先生や技術者の方による素晴らしいご講演を楽しみにしています。</p>

表 2. 若手セミナー参加レポート（神戸大学大学院 倉澤 智樹）

氏 名	倉澤 智樹
所 属	神戸大学大学院 農学研究科 学年：博士課程後期課程 3 年
今回のセミナーを通じて感じたこと、今後の意気込み、決意 等	<p>この度、中屋先生のご講演を拝聴し、自身の研究へ取り組む姿勢を再構築する必要があると痛感しました。これまで、私は多くの研究プロジェクトにおいて実現可能性の高さに重点を置いて、研究を進めてきましたが、先生の難しい課題へチャレンジする姿勢にハッとさせられました。チャレンジングな課題に着手することは、自分自身を成長させることができるとともに、社会的に価値ある、あるいは、インパクトのある研究成果にもつながると考えられます。もちろんのことながら実現可能性も重要ですが、そこに冒険心を含んで、今後研究活動に取り組んでいければと考えております。</p> <p>また、私は修士課程を終了後、一度行政機関の土木技術系職員として実務を経験してから、博士後期課程に進学しました。そのため、修士課程終了後にそのまま博士課程に進学した方々と比べると、キャリア的には遅れていると感じていました。しかしながら、「遠回り」してきた経験を研究者としての飛躍に結び付けられてきた中屋先生のお話を拝聴することで、大変勇気づけられました。現時点では、まだ実務経験を直接的に研究活動に結び付けられてはいませんが、もしかすると間接的には役立っているのではないかとポジティブな思考になりました。今後とも、実務とアカデミックの両方を知っている私ならではの、オリジナルな研究成果を創出できるよう精進して参ります。</p> <p>この度は貴重な機会をありがとうございました。</p>

おわりに

お忙しい中、若手セミナーへ御参加下さった方へ、この場をおかりして厚く御礼申し上げます。YEPS 委員会では、今後も様々な企画・運営を行い、地下水学に関わる若手の皆様への支援・繋がりづくりの場を積極的に展開していきたいと考えております。

最後になりましたが、今回の若手セミナーは、一般財団法人 中辻創智社からの助成金を受けて実施したものです。ここに記して感謝の意を表します。

ご意見・ご要望、若手会への入会希望、若手ニュースメールの登録希望等ございましたら、下記までご連絡いただけますと幸いです。

連絡先 (YEPS 委員会) : yeps (at) jagh.jp (“at”を@に変換)